

経営比較分析表（令和4年度決算）

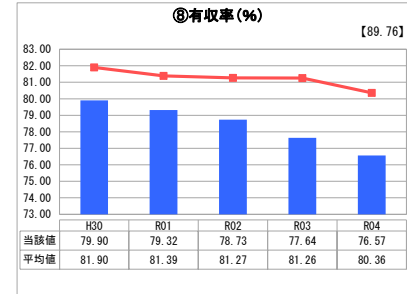
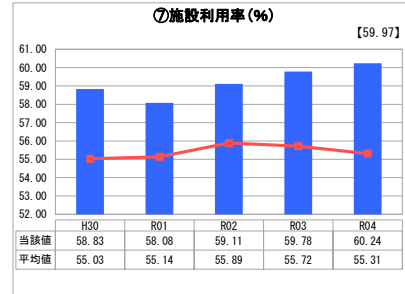
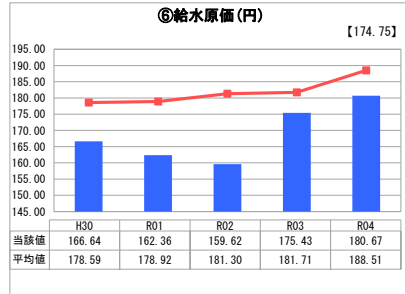
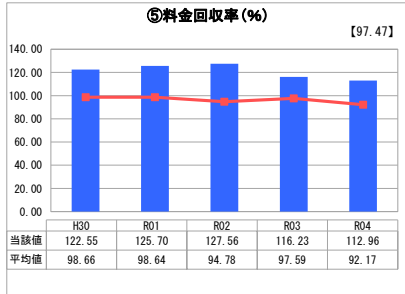
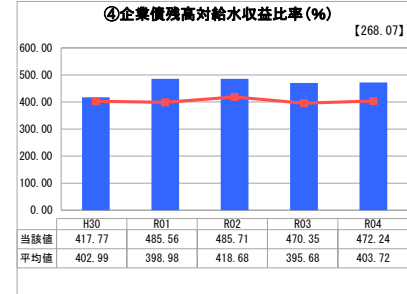
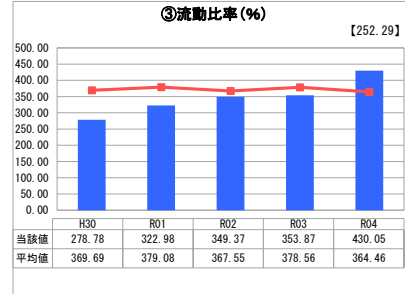
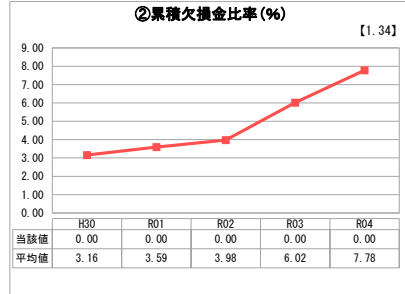
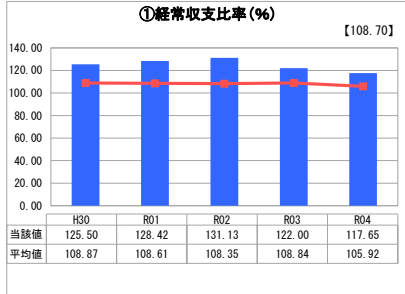
佐賀県 鹿島市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	69.33	87.90	3,960	

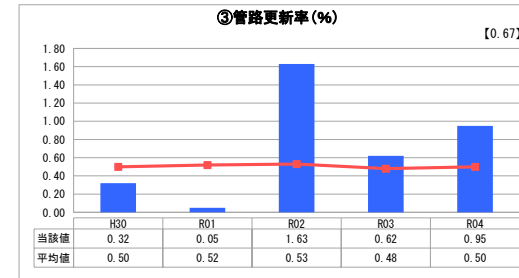
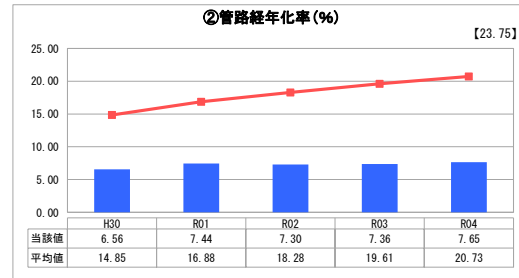
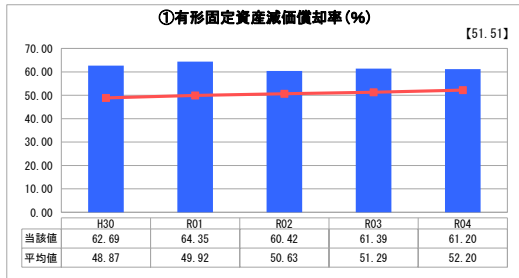
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,914	112.12	248.97
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
24,342	28.23	862.27

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率について、令和4年度は給水収益の減少や経常経費の増加により前年度より低下した。
 流動比率は、企業償還が年々減少していることに伴い改善されつつあり、平均値を上回った。
 給水収益に対する企業償還高は、新規の配水池築造事業を令和5年度まで計画しているため、今後も高い水準で推移すると見込まれる。
 減価償却費等の経常経費の増加により、給水原価は前年度より上昇し、料金回収率は平均値を上回っているものの、前年度と比較して低下している。
 施設利用率は、一日の平均配水量が増加しており、3年連続上昇傾向となった。
 有収率は、低下傾向にあるため、引き続き給水エリアの漏水調査を実施し、改善に努めている。

2. 老朽化の状況について

耐用年数を超える管路の増加が見込まれているため、有形固定資産減価償却率が平均より高く、管路経年化率は前年度より上昇している。
 令和4年度は、計画通り管路の更新を実施しており、今後も中長期財政計画を基に効率的な管路の更新を図る必要がある。

全体総括

経常収支は、経常経費の増加等により前年度と比較して低下しているが、経常利益を計上しており、経営状況は良好といえる。
 しかし、今後の課題として、管路を含む水道施設の老朽化が進み、更新や耐震化に多くの費用が必要となるが、給水人口の減少により給水収益が減少傾向にあるため、中長期財政計画に基づき、財源の確保と水道施設の計画的更新に努める。